

研究のねらい

- 1 「聞く」「読む」「書く」などの技能を修得させる。
- 2 「考える」「感じる」「表現する」能力を高める。

取り組み

(1) 学習規律の確立……《確かな学力をつけるために》

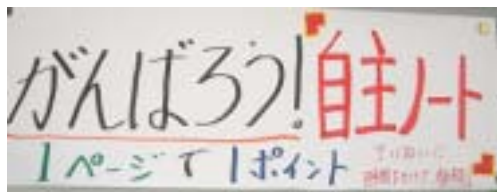
話し方 聞き方

(2) 授業展開の統一

めあて(目標)の掲示

ふりかえりの位置づけ

教師の評価



中学校1年掲示

(3) 問題解決型の授業づくり

(4) 家庭学習の充実……家庭学習の定着 学習の自律

アンケート実施

自主ノートの実践

(5) 研究授業の交流

(6) 小中兼務の実施

音楽科

(7) 中学校体験授業の実施

(8) 児童会, 生徒会活動の充実

委員会活動

集会活動

(9) 朝読書の推進



山びこ集会

到達目標

中学校……論理的に表現できる

発表を積極的に行う。

「正確に伝える」「適切に伝える」

筋道を立てて考え, 論理的に表現する。

小学高学年……要点を簡潔に表現できる

5W1Hを明確にする。

主述のねじれのない文章で表現する。

理由が複数の場合は, ナンバリングをつける。

小学中学年……分かりやすく表現できる

「結論」先行型で表現する。

「理由」を述べる。

小学低学年……自分の気持ちを伝えることができる

名前を呼ばれたら「はい」と返事をする。

「主語, 述語」を明確にする。

< 成果と課題 >

- (1) 「ことばの教育」を推進しようとする教職員の意識が高まり, 授業や集会等での児童・生徒の活動で, 表現力の向上が見られた。
- (2) リーダーガイドの活用が, 「自分たちで行動しよう」とする自覚を促し, リーダーを中心とした「話し合い等」が実践できている。また, 全校での「声出し」や「問答ゲーム」により, 意欲的に自分の考えを大きな声で表現できた。(小)
- (3) 「山びこ集会」等の生徒会自治活動による意見交流を実施することにより, 自分の考えや思いを伝えることができた。継続による質の向上を目指したい。(中)

具体的実践

小学校

中学校

(1) 家庭学習の実態把握(5月)……自主学习・宿題に関するアンケート(小中)

(2) 「ことばの教育」推進に向けた取り組み

< 児童の実態 >

前向きな性格である。

声が小さく聞き取りにくい。

自分の考えを, 相手に話すことが不得手である。



声出し

ア. 「話し方」を定着させるために

低学年・中学年・高学年の到達目標を設定する。

イ. 声の大きさと, 明瞭さを定着させるために

全校での「声出し」の取り組みを継続する。

(3) 複式学級における授業展開の工夫

「自律」を促す授業の組み立て

全学年, 算数科において「リーダーガイド」を学期に1単元以上作成, 実践交流をし, 授業改善を進める。

ア. 直接指導をしなければならないところを明確にする。

・課題把握の場面

・自力解決の場面

・練り合い ・まとめ

イ. 間接指導で必要なものを明確にし, 手立てを考える。

・具体物 ・既習事項の確認

・ワークシート ・児童の学び力



複式授業 3・4年生

分かりやすい授業の工夫

(例) 4年算数「割り算」……ドット図の活用

・自力解決の難しい児童への支援

(2) 「ことばの教育」推進に向けた取り組み

山びこ集会(毎週月曜日)……各学年意見交流

クラス討議 意見集約 発表者選出

< 1学期の意見 >

1年……道徳授業より「命の大切さ」, 「授業改善をどう行うか」

2年……中国新聞の記事から「2年生の生活」, 「授業改善をどう行うか」

3年……「授業を大切にするために」~旧生徒会の掲示物から

1学期「実践レポート」から

国語科……【発表】「結論」を先ず言う 「根拠」「ナンバリング」

【表現】・語彙力をつける

・ジュニアレポーター認定の取り組み

社会科……ア. 発表を積極的にさせる指導(発表回数の記録)

イ. 文章で発表させる 単語のみにならない

ウ. 簡単に「わからない」で終わらせない指導

数学……ア. 個の取り組み 確かな学力をつける(論理的な思考)

イ. 分かる授業(思考の支援)……教材・教具の工夫

ウ. 個別指導

理科……ア. 実験レポートを書かせる

英語科……ア. Warm-Up Game イ. 基本文 Q and A

ウ. 読み練習

エ. 書くことの練習

オ. ノートの指導

(3) 「テスト計画表」及び「家庭学習がんばり表」の記入

(4) 授業改善の取り組み~授業を大切にするために

聞く

発表・反応

ノート整理など